関大
発行所
関西大学校友会
大阪市大淀区長柄中通二丁目
編集発行人 長柄金吾
電話 大阪㊥代 2072番
振替口座大阪 55594番

置田德治郎 39.6

新役員への要望

論壇

九月二十五日の評議員選挙委員会の当選者発表によって別項のように新評議員八十三名が決定した。また十月十二日の初の評議員総会で、別項のように議長、副議長、理事、監事がきまり、きたる十七日に開かれる理事会では理事長、専務理事、常務監事が互選されて役員新陣容が決まることになろうがこの新役員によって今後の関大の経営管理、運営がなされることになる。

そこでわれわれが望むのは、これらの役員がいかにわが関大の現状を理解しているかである。いわゆる新経営陣の認識のスタートラインともいいうるであろう。

そこで論壇子の関大観を披歴して大学に関心をもつ多くの人々に正しい批判の資料に供したい。

第一 歴史的に見た関大

明治十九年秋に設立した関西法律学校はわが関西大学の前身であるが、明治三十三年七月に社団法人関西法律学校となり、同三十八年一月には専門学校令による私立関西大学と改称され、大正九年三月に財団法人関西大学に改め、同十一年五月、大学令による大学に昇格し、昭和二十六年学校法人関西大学に改組されたのであるから、社団法人、あるいは財団法人およびその前身を通算すれば実に六十余年の長い歴史の関西大学である。

しかしながら教育基本法、学校教育法に由来する私立学校法に準拠した新制大学、すなわち学校法人関西大学の経営は昭和二十七年九月に行なわれて選出された評議員、理事、監事の経営組織に再発足して、大学設置基準に順応する諸般の充足に着手するにいたったのであるから、この意味からも、また内容からいっても関大は古くて若い大学で、昭和二十七年から三十一年までは旧制大学より新制大学へ移行の創設時代といえよう。

つづく昭和三十一年から三十五年までの期間は、既存計画、継続事業として第三学舎について総合研究所の竣工、工学部の新設、工学部の学舎研究実習施設の建設、教授陣容の充足、研究図書の充実など近代大学としての内容、外観の補完整備の時代であった。

さて、新制大学、近代大学としての様相がおおむね充足されて、教育付属設備、体育付属設備、学生の厚生施設などが整備され、総合の調整と調和を実現し、経営面、教学面その他の管理機構や運営機構を整備してその有機的機能活動を十全ならしめあわせて長期経営計画と教育基本方針を確立して大学の安定発展を図るのは、今期（第三期）の経営者に課せられた重大な任務で、この期を調整、調和、発展時代と見たい。

以上の三期は弁証法のいわゆる正反合にたとえて批判し、判断ができ、新制大学として急激に拡大膨張し大諸現象、諸事実に縦横相互間に過渡症状があることは否定できない。この過渡的現象を融合調整して、正常化を図り、安定伸長を期することは目下の急務であり、新役員に課せられた任務と考えられる。

第二 経営組織から見た関大

大学に関与する者、教育基本法第六条にあるように、全体の奉仕者であって、自己の使命を自覚し、その職務遂行に謙虚な努力が必要である。勿論この謙虚な奉仕者とは、適正な待遇を受けることを否定するものではない。

関西大学は行政官庁ではない。従って権力的命令服従の関係は生まれない。また一般通称される公共団体とも本質を異にしている。そこには名誉職的な実体は存在しない。あるいは協同組合的事業とも類同するものではない。さればといって営利追求を第一義とする商事会社等の営利企業体でもない。

それは教育基本法、学校教育法および私立学校法に基づく学校を設置して教育を行なうことが目的である。この教育を行なう目的を遂行する自主独立の学校法人としての特殊経営組織体である。

教育を授け受ける人間相互関係とこれらを収容して目的事業を実施する人間と施設を総合的に管理する人間それは財貨を生産し販売する収益企業と異なって、人間が人間を育成する人間の場に終始しているのである。人間関係は血の通う愛情が中心でなければならない。この愛情を根拠として、相互理解、相互尊敬、相互信頼、相互納得の人間関係の妙諦連鎖の活動が必要となる。そこからも旺盛な科学心も生れて、唯心でなく唯物でもない、物心融和の組織活動体が創造されなければならない。今の関大経営組織に、このようなうるおい、このような愛情、このような理解、このような信頼が欠けていないだろうか。学問は科学の場であるが、教育は科学一辺倒ではない。そこに教育を行なうことを目的とする学校、大学の使命がある。人間が人間を育成し、人間を管理する人間関係がなければならない。

役員構成が改まった今こそ、この人間関係に重点をおいて、よき大学管理組織を樹立し、よき運営を図ることを望んでやまない。

いまさら、野球競技にたとえるのはどうかと思うが、最下位の大洋ホエールズが優勝したのはチームワークの賜物である。一人一人の力や手腕よりも、全体のまとまった団結力、結束力の偉大さを感得させられる。生きた教訓見本ではなかろうか。

新理事、監事を選出

初の評議員会ひらく

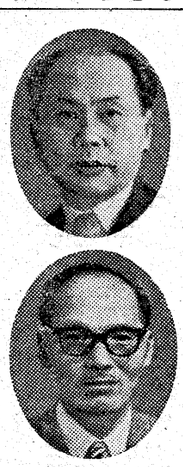
第1回 理事会はきたる17日

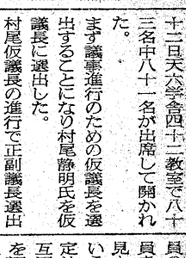
今月から向こう四年間の任期につく新しい評議員は先月二十四日に行なわれた選挙で校友中選出の五十名が決ったほか、推せん評議員、学内選出、職務上評議員あわせて八十三名（全員）が決定した。

この新評議員による第一回の評議員会が十月十二日午後三時から天六学舎で行なわれた。その結果、新議長に中石清一氏、副議長に戸根泰雄氏が選ばれたあと、中石議長により議事が進められ、新理事に大小島眞二、樫本信雄、西村治三郎、久井忠雄、三好万次、矢野文雄の六氏、監事には岡野衛士、長柄金吾、松尾高一の三氏が選ばれた。

中石評議員会議長

矢口孝次郎理事


大小島眞二理事


戸根泰雄同副議長

矢野文雄理事

樫本信雄理事

岡野衛士監事

西村治三郎理事

長柄金吾監事

久井忠雄理事

松尾高一監事

三好万次理事

中石評議員会議長の話 今度の選挙で評議員会議長に選ばれました。別にあらたまっていうべきではないが執行機関である理事会と議決機関である評議員会がその本来の姿で本分を守ってやってゆくように運営してゆきたいと思っています。改めるべき点も多々あるのであろうが、極力円満な環境のなかでその解決に協力し、立場を守りつつ大学の発展につくしてゆきたい。

第一回評議員会は秋空すんだ十月二十日天六学舎四十二教室で八十三名中八十二名が出席して開かれた。

まず議事進行のための仮議長を選出することになり村尾静明氏を仮議長に選出した。

村尾仮議長の進行で正副議長選出の議事にうつり、投票を行なった結果、議長に中石清一氏、副議長に戸根泰雄氏を選出した。

ここで仮議長は中石新議長と交替にはいることになった。

第一回理事会は秋空すんだ十月二十日、まずその選出方法について各評議員の意見を求めたところ、選考委員を選んで検討する方法などの意見もでたが、結局、選挙しようということにおちつき、寄附行為に定められているとおり評議員会で互選する六名の理事、三名の監事を選ぶため、理事は六名、監事は三名の連記無記名で投票が行なわれることになった。そして投票の結果、理事には大小島眞二、樫本信雄、西村治三郎、久井忠雄、三好万次、矢野文雄の六氏が選出された。理事選挙につづいて監事三名を選ぶ投票が行なわれ、岡野衛士、長柄金吾、松尾高一の三氏がえらばれた。

評議員会はこれで予定された全議事を無事終了し、顔つなぎの懇親会と記念撮影を終後に、午後七時閉会した。

こんどの予定は職務上理事をつとめる矢口孝次郎学長を加えて初の理事会が翌日の十七日に開催される。その席上、理事長と専務理事が互選される。

また監事団でも常務監事を互選しこれでもこう四年間の任期につく全役員が決定する。

新評議員一覧表

さる九月二十四日に施行された学校法人関西大学評議員選挙の結果八十三名の評議員が一覧表のとおり決まりました。

【職務上評議員】

矢口孝次郎（関西大学学長）
三島 律夫（関西大学第一高等学校・第一中学校校長）
筧田 知義（関西大学幼稚園長）

【学識経験者】

阿部 甚吉（昭7専法）弁護士、前期評議員会議長、前
今井 康乗（昭14大経）大阪機械製作所常務、前期監事、前
大小島眞二（教授）関大文学部教授、前
大月 伸（大6専法）弁護士、関大校友会長、前期理事、元
岡野 衛士（大11専法）大阪証券取引所理事長、前
樫本 信雄（昭3大法）弁護士、校友会副会長、前
神宅實寿恵（大4専法）弁護士、前期関大理事長、前
浪江 源治（昭2大法）弁護士、関大員外教授、前
西村治三郎（大14専商）神戸トヨペット社長、前期理事、前
西本 寛一（大11専法）弁護士、関大員外教授、前
久井 忠雄（昭6大法）弁護士、前期事務理事、前
松原 藤田（昭14大経）関大経済学部教授・部長、前期理事、前
三好 万次（大4専法）近鉄相談役、前期監事、前
村尾 静明（明37法）大阪地裁調停委員、前
矢野 文雄（昭9大法）矢野茂次商店副社長、前期常務監事、前

【校友から選出】

井上 意男（昭6専法）大阪郵政監察局第三部長、元
石井 寿一（推）大阪日日新聞社長、関大教育後援会長、新
岩佐清三郎（昭7大法）与太呂社長、前
上田 高嶺（昭25学二商）公認会計士、新
上野 俊彦（昭6大法）弁護士、新
江里口春志（昭9大法）江里口医院長、前
越智比古市（昭7大法）弁護士、前
大島治郎一（昭6専法）藤浪証券社長、新
大島 武夫（昭8大法）弁理士、前期評議員会副議長、前
大森 俊次（昭30学二法）旭今市郵便局長、前
門上 敏夫（昭18大経）大阪興論調査研究所長、前
金本 朝一（昭25学二国）港高校教諭、新
蔡川 喜一（昭8専一法）大阪府労働部長、前
菊久池 博（昭8専二法）近畿相互銀行常務、新
小寺小市郎（昭3専法）小寺不動産社長、前
小林 巌（昭14専二法）大阪府会議員、前
後藤 正身（昭10大法）阪南中学校長、新
佐伯 五郎（昭17大経）鐘紡淀川工場庶務課長、前
図師 親徳（昭7大法）弁護士、元
高垣 善一（昭10大法）和歌山市長、前
寫樣 正次（推）奈良市長、前
竹沢喜代治（昭9大法）大阪地裁判事、前
千巌 克郎（昭26学二経）巌社長、
辻野 新一（推）弁護士、新
寺西 武（昭24大法）大阪市会議員、前
戸根 泰雄（昭7大経）森下仁丹取締役、前
中右 清一（昭5大法）大阪市会議員、前
中沢 俊雄（昭17大法）近鉄開発局営業課長、新
中山 幸市（大13専商）太平住宅社長、前
長柄 金吾（昭12大経）計理士、関大校友会副会長、前
野間 秀泉（昭9大哲）妙見山本滝寺住職、前
畑下 辰典（昭27学二経）公認会計士、新
深川 実（大14専法）弁護士、前
本多 喜慶（昭9大法）守口市教育委員長、前
松尾 高一（昭2専経）尼崎信用金庫理事長、前
松広 寿衛（昭3専商）松広製作所社長、新
松村 睦鴻（大13大法）鉄道弘済会総務部長、
前川信之助（大4専法）ナショナルインターホン販売社長、新
万谷 精雄（昭6専商）パール化学工業社長、
宮崎 幹大（昭2学一政）日本理化代表取締役、前
村上 精三（昭5専経）大阪市教育委員会庶務課長、前
森 寛紹（大15大法）高野山普賢院住職、前
森 正治（昭14大法）呉羽製鋼社長、新
保井 剛一（昭14大法）保井金属代表取締役、
山崎 敬義（大15大法）公証人、校友会監事、
山野田重治（昭2専経）尼崎製鈑社長、新
横山 栄吉（推）横山取締役会長、新
吉田 一郎（昭8大法）大阪府農林部林務課長、前
吉田鹿之助（大13専法）東洋現像所取締役、前
渡辺 正人（昭7大商）大阪市福島区長、前

【学内＝大学】

明石 三郎（教授）関大法学部教授、前
植田 重正（教授）関大法学部教授、新
植野 郁太（教授）関大商学部教授、新
上遠 直夫（教授）関大商学部長、前
新 雅弥（教授）関大工学部教授、新
小川 稔（教授）関大工学部教授、新
河野 関大商学部教授、
杉原 四郎（教授）関大経済学部教授、前
鈴木 祥蔵（教授）関大文学部教授、新
高木 秀玄（教授）関大経済学部教授、元
亜井 義正（教授）関大文学部教授、新

【学内＝高等学校】

黒岩 博（教諭）新

【学内＝中学校】

吉富 二郎（教諭）前

【学内＝事務職員】

池田信之助（関大学務局長・昭4専英）前
酒井 彦一（関大就職課・昭29学一商）新
安井 華弄（関大秘書室長・昭4専国）新

当選者得票数

一〇七二 中山 幸一
八六七 上田 高嶺
六一三 佐伯 五郎
五八五 小寺小市郎
五三一 畑下 辰典
四七九 森 正治
四七七 前川信之助
松尾 高一
四六九 門上 敏夫
四五九 長柄 金吾
四五七 竹沢喜代治
四五三 吉田鹿之助
四四六 大島治郎一
四四二 寺西 武
四三七 石井 一
四三七 越智比古市
四三五 戸根 雄
四三四 保井 剛一
四三九 高嶺 善一
四三七 岩佐清三郎
四〇八 大島 武夫
四〇三 松広 寿衛
三九九 辻野 新一
三九四 吉田鹿之助
三九四 図師 親徳
三七二 寒川 喜一郎
三七一 上野 俊彦
三七一 本多 喜慶
三六九 金本 朝一
三六三 横山 栄吉
三六一 岩佐清三郎
三六一 深川 実
三五九 松村 睦鴻
三五九 宮崎 幹大
三五六 山野田重治
三五〇 大森 俊次
三四九 小林 巌
三四六 後藤 正身
三四五 図師 親徳
三四三 本多 喜慶
三四〇 上野 俊彦
三三八 中沢 俊雄
三三一 井上 意男
三二九 村上 精三
三二七 後藤 正身
三二七 菊久池 博
三二七 万谷 精雄
三二七 高垣 善一
三一三 古市 実

学園だより

九月末で五学部長の任期が満了したため、各学部教授会では新学部長を選出、十月一日付で学校法人から発令された。

法学部長 教授 中谷 敬寿
文学部長 教授 広瀬 捨三
経済学部長 教授 松原 藤田
商学部長 教授 植野 郁太
工学部長 教授 田中 晋輔
法学部長代理 教授 桜田 誉
文学部長代理 教授 見次 直雄
経済学部長代理 教授 杉原 四郎
商学部長代理 教授 山口吉兵衛
工学部長代理 教授 尾崎 良平

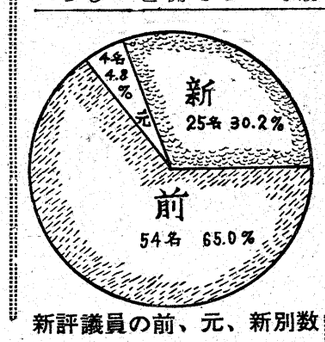
東井助教授帰国

経済学部・東井吉美助教授は半年の在外学術研究を終え、十月十日大阪商船「ブエノスアイレス丸」で帰国した。

投票総数 25,317票

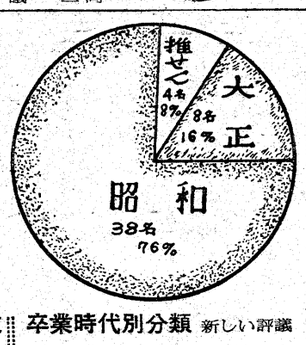
今回の評議員選挙

昭和卒が76%しめる 校友選出



新評議員の前、元、新別数

新しい83名にのぼる評議員の前、元、新別数と比率は上掲のとおり。校友選出の50名では、前32、元2、新16である。



卒業時代別分類 新しい評議員中校友から選出された50名の卒業時代別数は上掲のとおりである参考に付記すると 100名の候補者の卒業時代別数は明治2、大正18昭和74、推せん6である。

整然と進められた開票—選管委投票検数場で

客附行為により評議員八十三名のうち大部をしめる五十名が校友中から選出されるが、その選挙が既報のとおり九月二十四日にしめきられ、翌二十五日に開票された。こんど行なわれた選挙は昭和二十七年、三十一年につぐ三度目のもので、有権者である住所判明校友数も、前回より約二万名増えている。

今回の開票は投票がしめきられた九月二十四日の翌日、天六学舎内選管委事務局で阿部委員長をはじめ全選挙委員が出席して行なわれた。

開票所へ厳正に保管されていた投票箱が運びこまれ、選挙委員立ちあいでただちに開票にうつった。規定の封筒で郵送された投票の封をきり、検数、大分類、小分類と順序よく進められた。今回は公開で行なわれたために候補者、関係者、校友らも数がつめかけ、熱心に開票を見守った。

午後三時すぎには、つぎつぎに集計されてゆく中間得票数が発表され、関係者は一心に聞きいっていた。

開票は午後五時近く完了、ただちに理事会議室で選挙委員会が開かれて再確認のうえ正式に阿部委員長から発表され、同時に公示がはりだされた。

今回は前回より有権者数がふえたことも関係し最高得票は一〇七二票に達した。また五〇位の得票数は一七四票であった。

投票総数二五、三一七票で、内有効票二五、一七四票であった。

新しく選出された五十名の評議員と推せん評議員、学内選出評議員職務上評議員あわせて八十三名の前、元、新別数をみると、前が五四名で全体の六五・〇%をしめ、元は四名（四・八%）、新が二五名（三〇・二%）という比率になった。また校友中選出五〇名の評議員のうち昭和卒業者が一ばん多く三八名（七六%）をしめていることも昭和卒校友が一番多いことはいえ注目される。

葦の雫

昨年あたりから近代ビルに勤めるオフィス・ガールに奇妙な病気が流行した、いわゆる冷房病でどこにも故障はないが全身がだるく、めまい、ふらつき、食欲不振といった一種の神経性のもので、家で二、三日のんきにすると快復するが、出勤するとまた病状が起る。しかし、秋冷とともにこのビルの冷房もむしろ暖房に変りつつあり、この病気もケロリと治ってきた▼夏の暑いときでも冷房完備のビルに働く男たちは、長袖のワイシャツを着、都合で上衣もつけている。冷房の標準は二十度から二十三度、いわゆる快感温度を持続、秋冷で外気が丁度この快感温の二十度前後なのだ▼その点男子はよく心得ているのだが問題は若い娘たちで、夏は暑いところで働く娘さんと同じように、裸体に近い服装である。袖は肩が見えるほど切り、生地はペラペラの薄いもの、これで十月ごろの気候〈温度〉と同じところで働いているのだから風邪をひくとまではいかなくとも身体が変になる。しかも一歩外へ出ると三十三度や三十五度の猛暑だ。いかな精巧な自律神経もコントロールを失わざるを得ないフラフラ症状が起る次第▼長袖かカーディガンでも着ればいいのに外見ばかり気にするとこんなことになる▼評議員選挙もずいぶん騒がしい雑音をきしませながらとにかく終了。続いて理事の顔ぶれが揃った。えてして浮い娘さんのように夏は夏の服装といった見得で形ばかり整えることがあっては評議員会、理事会もフラフラ病になる▼真に学校を愛し学生の将来を考え、大学の進展を祈る理事会であり、評議員会であってほしい。評議員会への出席率が甚だ香はしくない人がまた出て来て当選するようでは、何故、評議員に出たのか判らない。また肩書や面子を尊ぶあまり票集めに狂奔した人があったとは思わないが、とにかく、大学のために働く情熱を新らしい評議員、理事に望みたい。任期は四年でも大学は永遠に発展を続ける。四年四年の一こまが強い鎖の輪になるよう。切角快感温度の十月である。自由な姿で想をねり心を新たにしてほしい。

コンタクトレンズ
メガネ
大学堂
本店 心斎橋筋
TEL (27) 8086
支店 阪神百貨店5階 才一生命ビル専門大店

みんなそろって……
たからづか
宝塚歌劇
宝塚新芸座
植物園
動物園
科学館
遊園
交通
この他、ヘルスセンターなどあらゆる娯楽施設完備！入園料…大人50円 小人20円
阪急電車

お座敷 北京料理
天山閣
生玉境内電話㊥2285・3550・4828・4731・5960

新館落成
国際観光旅館
錦溪温泉油屋
営業主 山田清（昭19卒）
南海高野線三日市町下車すぐ（ナンバより45分）
電話河内長野14・338・356
大阪案内所（77）8590

最高位
入賞
1960年新スタイル
全国紳士服コンクール
内閣総理大臣賞 受賞
片野洋服店
本店 大阪市東区北浜三丁目電停前 電話㊥0565～7
大阪駅前店 第一生命ビル専門大店 電話㊥6716
★大阪有名店加盟店
★日本信販加盟
★大阪信販加盟
★大阪府職員互助会加盟店
御一報次第見本取揃え参上致します

あなたも証券投資が楽しめます
有利な証券投資！
…それが僅かな月掛で手軽にできたら！ あなたのそんなお望みにピッタリ合ったのが日興のマネービル・クラブです
・オープンコース……毎月 2千円から
・ニコニココース……毎月 5千円から
・割引債券コース……毎月 1万円から
・電力社債コース……毎月 1万円から
日興證券
大阪支店 東区高麗橋五
（大阪駅前・堂島・野田阪神・難波 千日前・天六・上六・アベノ）
尼崎・京都・神戸・和歌山・姫路

2階電車は 車内冷暖房 シートラジオ 公衆電話などを設備した豪華特急です
2階電車 ビスタ・カー
近鉄特急
大阪—名古屋 ノンストップ 2時間27分
大阪上本町発 7.00 8.00 9.00 11.00 13.00 15.00 17.00 18.00 20.00
近鉄名古屋発 7.25 8.25 9.25 11.25 13.25 15.25 17.25 18.25 20.00
ほかに伊勢ゆき特急 大阪・名古屋連絡 （）は名古屋・伊勢間
大阪上本町発 8.10 9.10 12.10 14.10 16.10 19.10
近鉄名古屋発 7.35 9.35 12.35 14.35 16.35 17.35 (21.00)
停車駅…鶴橋・八木・中川・松阪・津・四日市・桑名
座席指定特急券 お求めはご乗車の5日前から始発と停車駅・近畿日本ツーリスト
近畿日本鉄道

祝
生きたデザインすぐれたクラフト
室内・家具設計施行
株式会社大丸 室内装工部
関西大学創立七十五周年

皆さまと共に栄える
大和銀行
本店 大阪市東区備後町2丁目
店舗 国内全国主要都市百余カ所
海外 ニューヨーク・ロンドン駐在員事務所

校友総会、11月4日か

大学では七十五周年 記念行事も計画？

本年度定例校友総会実施計画をたてるため校友会ではさる七日総務部会を開催して検討した。今年は昨年のように大学祭の日を選んで開くことは実際上むりであるため、総務部では協議の結果、大学で創立七十五年記念式典を実施することが本決りになったならば、その日の午後に総会を開くことを予定することになった。いまのところ、行なわれるならばこの式典は十一月四日の本学創立記念日になるもようであるが、校友会では大学側のこのうごきを見て、きたる十月十七日の常議員会で日程など具体的な細目が本決りするものとみられる。

会と催し

10月16日（日）　箕面支部総会が箕面市桜井駅の桜ヵ丘会館で午前11時から開催、同総会に先きだって、経済学博士・松原藤田教授の講演会が行なわれる

10月23日（日）　一高同窓会総会が午後一時から千里山第三学舎第二四教室で開かれる。

10月29日（土）　関大大阪倶楽部総会は生駒山宝山寺を見学した後、料亭「丹頂」で開かれる。

11月6日（日）　八尾支部総会が八尾市立労働会館で午後六時から開かれる

あすなろの支部から

大阪経済人会発足

経営上あらゆる面で協力を

大阪経済人会が、十月五日午後五時から、大阪・第一生命ビル「好文クラブ」で十七名が出席して発会のうぶ声をあげた。一度中断されていたものを、佐伯五郎氏（鐘紡庶務課長）、戸根泰雄氏（森下仁丹取締役）ら五名ばかりが発起人として再興したもので、飛躍する京阪神をバックに、その道で活躍する校友二十四名が参加、経営上、労務管理上、企業形態のあり方などについて意見を交わし協力することを目的とする。また会員のいずれもが母校の評議員である関係から母校に対する抱負も大きく、社会学部の創設や優秀な学生を海外留学させるとか、全学一致で真味のあふれたチーム・ワークのもとに、大阪財界の第一線に活躍する人材を育てあげ積極的に母校の発展に努力することを語りあった。そして今後は年二回の会合をもって、会の発展に努力することを決めた。

大阪経済人会発会風景

富田林支部

例会を奇数月第二土曜日に

先輩六氏に相談役を委嘱

富田林支部第二回総会は十月九日（日）午後三時から、市内PL清光園に十数名が集まって開かれた。万谷支部長の母校評議員当選に会員から祝辞があって学歌斉唱後掘江副支部長の開会の辞で議事がすすめられ、経過報告、会計報告、そして、会則一部変更の件で、相談役を委嘱することに改正、大先輩として大正年間に卒業した辻野信次氏ら六氏に相談役として委嘱することになった。また近接町村に在住ならびに勤務先をもつ校友の支部会員として協力願うことになった。さらに、支部例会を奇数の月の第二土曜日に市内「竹馬亭」で開くことをきめた。このあと懇親会にうつり、各珍芸を披露したりして八時すぎ盛会のうちに散会した。

福井支部

総会を春秋二回に

三十余名が集まる

福井支部総会は九月十日（土）午後五時から福井市「風琴亭」で三十余名が出席して開かれた。学歌を斉唱して開会、故岩崎博士の冥福をお祈りして黙禱、会員紹介があって、一般会務報告にはいった。このあと、提案協議事項として支部発展のための対策を検討、北陸ブロック結成についての意見を交換、最後に学園のPR映画『大阪の華』を上映した。遠く母校を離れると、その発展ぶりには、ひときわ、学生時代を回顧させられるものがあって、学生歌や応援歌などを合唱、和気あいあいのうちに支部万才を三唱して閉会した。なお来年度から支部総会を春秋二回にすることをきめ、地区別に左記幹事を選任した。

福井高志地区　五十嵐一栄
丹南地区　山田兵衛
坂井地区　堂垣内泰信
大野勝山地区　乾好晴
嶺南地区　内藤義臣
山口　俊雄
幹事長

ご出産

後藤義弘氏（昭30学一経）には九月十六日、男子ご出産のおめでたがあった。

西支部

札野支部長を重任

豪雨の中を多数集まる

西支部総会は九月七日午後六時から、台風十六号の余波をうけて、時々、集中的に雨がはげしく、会員の出席が危ぶまれたが、定刻までに三十名近くが、北区の「柴苑」に集まり大月会長をむかえて開催した。開会に先だち、まず関西大学PR映画『大阪の華』を上映、学生生活をなつかしみながら、佐々清一氏の開会の辞で議事がすすめられた。稲田公男氏の経過報告、山本守昭氏の会計報告があって後、議長に森寿治氏を選出して、支部会則一部変更の件、西ブロック講演会開催の件を上程して審議、いずれも可決して、員改選にうつった。その結果、万場一致で左記の役員を決定、懇談会ののち閉会した。

決定役員
支部長　札野茂次
副支部長　畠田信一　大塚平夫　平野繁敏

＝家裁・少年係調査官＝
高梨孝子さん

柏原支部

俗塵を洗い落して総会

近ぐリクリューションを

柏原支部総会は九月十日午後六時から、大阪南区の「喜楽別館」に十数名が集まり、順次入浴して俗塵を洗い落してから総会に入った。石幸副支部長の開会の辞につづいて奥野支部長があいさつ、会計報告、会務報告があって、秋季リクリューションの件について議題を上程した。リクリューションにふさわしい候補地が多数提案され、たのしい話にしばしを忘れたが結局、意見がなかなかまとまらず幹部の間で、近く具体的に検討して適当な場所を選定することになった。そして懇親会にはいり、九時過ぎなごやかなうちに散会した。

日本ところどころ

唄をたずねて　藤本浩之

足摺岬

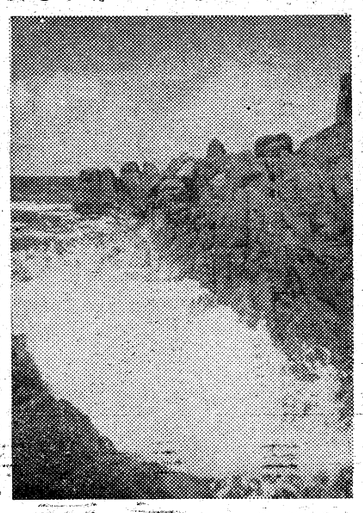
足摺岬バスには小さい「洗面器」を用意してあるほど凸凹曲折の多い山路がある。八十八ヵ所中三十八番の札所であるが巡礼にとっても難儀の多い道であったろう。

宇和島から宿毛（すくも）まではエアマットのクッションで快適なバスがあり、羽が生えて飛んでいるような気がする。沖には島や岬の多い海が見え、車は入江を曲り、峠を登ったかとみると次にトンネルをくぐる。軒先すれすれの部落を突きぬけると波際を走るというふうに三時間はあっともなく宿毛に着く。裁判所の庭のサルスベリの花が異国的な色に咲いている。南国では同じ木でも咲く花が多いのか、色が濃いのか、とにかく鮮やかである。宿毛から乗り換えた高知県バスになると道は長い山峡に入る。下川口というところから太平洋に直面する海岸で、海は青くろく暮色の迫る磯辺に砕ける波がしらが確かに白く光っている。

足摺まで連絡のバスはあるが、急ぐ旅でもないので旅宿に入る。古い漁港のことである、船宿めいた茶色の畳など想像していたがそれは失礼な無知であった。目さしていった旅館の玄関などさほどでもないが、ずっと奥まった室へ通されると、冷房装置とそないが、すべて新調の近代的数寄屋作りである。リュックサックをもった客には少々風流気がなさすぎるが、桐の天井板をながめながら眠りにつく。

朝、港へ出ると、漁船はみんな出てしまって、保安庁の「あしずり」という海難救助のニュースで名を覚えている船が岸壁にかかっているし、沖に駆逐艦らしいのが一艘うかんでいる。さざなみさえもなく静かに明けていく港の水は清く澄み、くらげの群がゆうゆうと遊泳するのがガラス模様のように透けて見える。

清水から足摺岬まで二十㌔、観光バスは一時間で走ってしまうが、そのうち十㌔はバスで走るにはあまりにも惜しい眺めである。白浜（しらはえ）という岩礁は、足摺岬と東西の西端になったところである。観光道路から海際まで高さ百㍍、県道を外れて海の方へ下っていく道に石段が多い、その石段が石でなくコンクリートであるが、まるいぐり石を平面にぬりたくってあるので上から見ると美術的な配置になっている。それを下って行くと、岩の上に竜神さまが祀ってある。その岩頭から無限の波のかなたをみつめているとむしろその方から水神が竜を駆ってあらわれてきそうな欲界の気さえわいてくる。



風のない日であるが、やのはるかな沖からよせてきては眼下の岩に突き当る波は四、五㍍の高さに砕けては、銀色の飛沫となって散っていく。その瞬間のしぶきは光をいっぱい吸収する輝く珠となる。白浜の神秘なまでにおく深く輝く珠とのが神秘なまでにおく深く輝く珠とから足摺への途中、海が湾入しているところに松尾という部落がある。道の上にのっかるような樅の巨木があるので見とれていると、その下の凹地には大きな日本一だという榕樹が一本、大きな幹に気根がまつわりついているのが見える。広く枝をひろげた葉の茂りも、一見してほかの木々より色濃くみえる。いくつかの岬を回わっていく道々の両側に樹木の丈けが高くなり、密林のような形になったところが多い。よくみると椿、トベラ（この地の人々がいう青い実がなっている）の灌木が主であるが、何万というその幹が竹林のようにまっすぐな、ぶあつい樹林を透してチラチラと光の見えるのは波を反射する空の光である。最後の密林を通りぬけると左手にある金剛福寺は四国八十八ヵ所中三十八番の札所、門前を少し下った岩頭に白く輝く灯台がある。すなわち、足摺岬に立つことになる。岬の付近も同じように椿、トベラの木が多いがひんろう樹の叢林もあり、南国的な感じが一層つよくなる。一帯の灌木の繁みを、小みちから外れて深く踏みこんでみると、無数の小鳥の巣箱がかけてある。トベラの実の赤くなるころ、どこからとなく集まってくるむじろ等どの小鳥のためという、その巣箱は目の高さくらいのところに架けられているのは、いたずらをする人もないためであろう。観光客の歩く小径からはちょっとはいったところでは見えないのである。

落日後、展望台から灯台付近の岩壁を見ていると、昼間白浜で見たのとは少しちがった美しい波が見られる。いくつかの岩礁が波をかぶって洗われるとしばらくはその周囲にさまざまな形の滝となって、四方へ落ちる水が銀色、真珠色に輝く、いまその岩を思っていると次の瞬間次の岩へ、また別の岩が前後する夕暮の光のシンフォニーの中で一つの楽器のメロディを追う感じがする。足摺岬では休むことなく光の音楽がつづいている。ところどころの夕雲がその彩を淡くして、黒ずでいく海の中に、ピアニッシモのほのかな波がしずかに終わろうとする。

好校友登場

少年の指導は家庭教育こそ大切

▼「最初はネ、おことわりするつもりでしたの。わたし、新聞で紹介されるなんて、そんな柄でもないし……でも、木下さん（昭13大法、キリスト教研究会OB）から、ぜひ、キリスト教研究会の宣伝もしてほしいとすすめられて……なにしろ、木下さんは大先輩でもあり、学生生活の四年間をキリスト教研究会でお世話になりましたし、現在のお仕事も、将来は社会的に必ず、のびていくとのことでこの推選いただいたもので……」

今回の高梨さんも実は木下さんのご推選、少年調査官という肩書きからは、なにかしら、冷たい印象をいだきがちであったが、話してみると、三人姉妹の末っ子らしい、甘ったるさを残した小柄なお嬢さんである。だが、昭和二八年法学部を卒業してからというから、足かけ八年昭和二四年に少年調査係が設立されてから、少年係四七人中女性が六人、その中で二番目の古参というから、もちベテランである。

▼ながなかいそがしい仕事のようで、少年の警察、検察庁等のあらゆる事件を裁判官のもとに身柄拘束期間二八日の間に、職業、家庭環境などから、その事件の潜在的な原因を調査、事件を処理するのに必要な意見書を提出する。最後の決定は裁判官がくだすが、その調査資料が客観的に一つの事件の判決を左右することもあって責任の重い仕事である。そのだけにことで考えたことが自分を作るのに大いに役立つという。

▼「ほんとに苦しいいやなことばかりです。親の無責任さから生まれなければよかったような子供もあって、一概にその罪を責めるわけにもいかず……大半は保護者のいない少年、小さい時から施設などで育てられたため、正常な人間関係をもてずに性格のゆがんだ少年、多分にその環境に支配されがちですネ、時には子供を返せと脅迫まで、そのくせ、感情的なだけで子供を理解していない」、釜ガ崎などは？「人間以下の営みといってもいいような、はじめてその世界を見た時はショックでした。学生時代、ただ純粋な理想だけを夢みていただけに、まったく理解出来ないことばかりで実感がともなわず、最近では実感がともなわないということになれて、自分までが普通からはずれているのではないかと……そのせいか、学生時代の純粋な夢が妙に印象深く思い出されてきます。といって、夢ばかりではどうにもならず、環境を浄化するには裁判所だけでかたづくものでなく、社会的に受けて立たなければ……ただ、社会が悪いからということは、いさぎよい無責任なようでもあり、私達身近かなところから、なかでも家庭教育ということを中心に少年達を指導していかなければと思います」

▼キリスト教信者としては、うってつけのように思ったが、ご本人によれば、自分にはむいていないとか。だが、今日まで続いたということは、お嬢さんのように甘ったるいムードが、すさんだ少年達を相手の仕事には効果があったようである。

▼たのしい時がほとんどない。単調の折衝だけに教育的効果をもてないという、この道にずさわる人達の良心的なものが心残りとして常にひっかかるようである。そのせいか趣味の話にふれると眼の色がかわった。

「なにしろいそがしくて……結婚？　そんなところまで考えるひまがありませんの」そんな口の下から「音楽には狂いじみているとまでいわれますの……だんぜんクラシック。昨年のイタリア歌劇は全部聞きました。オペラでは『アンジョバンニ』が一番好き、今年のフェスティバルももちろん、ボストン・プィルハーモニーなどとてもすてきでした。京都から神戸へも聞きに行きますのヨ……」ビジネスはビジネス、そして、ひまは作るものであるとか。

（たかなしたかこさん、昭和五年八月九日生、昭和二十四年甲寅屋川女学校を卒業後、本学法学部に進学、学生時代はゼミナールを桜田教授のもとで専攻、キリスト教研究会で活躍、昭和二十八年卒業と同時に大阪家庭裁判所に勤務、現在に至る）

☆　☆　☆

関大徳島県人会

阿波踊りに参加して

国見保具

阿波踊りに勢揃いした本学徳島県人会員と武庫川女子大生

徳島県名物「阿波踊り」は、さる九月三日から三日間、徳島市を中心に二大絵巻をくりひろげたが、在校生を中心とする徳島県人会も校生三十数名と武庫川女子大二十数名を加えた総員五十数名で踊りに参加、関西大学と大書きした高張りちょうちんのもとに、「関大早慶明法の東京六大学、日中専学の東都大学、さらに立命大、同志社大、浪速大、大阪科大、香川大、和歌山大の関西勢と、地元徳島大に負けじと、明治末期卒業の中田大先輩（明43専法）の「ツツミ」を先頭に、若手OB四名、在校生三十名、女子大二十名、「関大ガンバレ！」の声援に送られて、他大学を圧倒、常にリードした。

ここでいささか気にかかったことは、徳島県校友の在校生に対する態度だった。他県においては各先輩がその協力をおしまないのを聞くが……この阿波踊りでは参加下さった先輩は中田氏ただ一人、他の四名は卒業後二、三年という若手先輩ばかりである。諸々の事情もあるとは思うが、踊りの四日間は、警察以外は休業の徳島において、四日間のうちの一日か二日間は、警察以外は休業の徳島において、四日間のうちの一日か二日間は、警察以外は休業の徳島において、四日間のうちの一日か二

四年後のオリンピックと学生スポーツのあり方

□・□ 坂本幸夫 □□

坂本幸夫氏

ローマ・オリンピック大会は数々の話題をまいて終了したが、四年先は、いよいよ、東京大会にである。アジアで行なわれる初めての〝民族の祭典〟だけに一東京大会に寄せられる期待は大きいが、はたして関大から何人の選手を檜舞台に送り込むことが出来るだろうか。早くもある評議員は「歴史と伝統に輝く関大スポーツの真価を発揮するには、四年後の東京オリンピックが絶好のチャンスだ。大学当局に選手養成の永続的な方針を望みたい」と、張り切っている。さてその関大スポーツの実情は……。

× ×

〝歴史と伝統〟に裏打ちされた〝関大スポーツ〟とは何であろうか。明治十九年、西区京町堀で関西法律学校としてスタートした関大は、大正十一年いまの千里山に大学園建設の一歩を踏み出した。当時総理事長の立場で〝関大の礎を築いた山岡順太郎氏は「学の実化」とともに、スポーツを奨励して〝学問とスポーツの両立〟に務めた。昭和二年から十二、三年にかけては、この山岡氏の方針が見事に実を結んで、いわゆる〝関大スポーツの黄金時代〟を迎えた。ロサンゼルス・オリンピックの三段跳びで三位となり、ベルリン大会で日本陸上チームの主将だった大島鎌吉氏（毎日新聞東京本社運動部一東京大会選手強化対策本部副本部長）をはじめ、ヤリ投げの故長尾二郎氏、三段跳びの戸上研之氏、百メートルの故谷口睦夫氏、八百メートルの藤枝昭芙氏、マラソンの津田晴一郎氏、長距離の矢榮春雄氏など、往年の名選手を数えあげればキリがないほどである。当時強かったのは陸上競技ばかりではない。ボクシングでは極東大会で活躍した故南条実氏をはじめ、三谷幾太郎、橋本晴雄、安藤虹三らの諸氏が日本第一級の力を発揮。サッカーは昭和六年ジャワに遠征し、西尾寿太郎氏が作りあげたホッケーも特異な存在であった。またオリンピック種目ではないがアメリカ、ハワイへ遠征し、東京六大学を総なめにした野球団（当時は部とはいわなかった）関西最古の歴史をもつ相撲部や、アメリカン・フットボール部、関大が元祖となった拳法部、昭和十二年の デ杯に倉光安雄氏を送り出した庭球部など、どれを取り上げても骨のある部ばかりだった。往時の盛況を知る先輩や、関係者は『いまの関大は弱くなった』という。最近ある理事が『関大は、も早やスポーツで名を売る必要はない』といったとか、いわゆるトで問題になったことがある。大学のスポーツ、とくに私学のスポーツが、大学発展策の道具に利用されることが多いのは事実だが、本来〝大学のスポーツ〟はそんな桔息なものでない。昔も今も、日本スポーツの水準を維持しているのは〝大学選手〟であり、これは比較的プロ・スポーツの多いアメリカをはじめ、ヨーロッパ諸国にも当てはめていえることだ。ソ連が、スポーツ面でも近年著しい躍進をとげているのは、科学的な理論に基づいて育てる〝ステート・アマチュア選手〟の制度が大きくモノをいっているといわれる。日本の場合はいろいろの社会的な条件を考慮に入れると〝記録更新〟を狙える中心層はやはり〝大学選手〟に求めるほかなく、関大も〝売名〟といった副生産物を考えることなく、選手育成に本腰を入れて然るべきではなかろうか。しかし、現在の関大スポーツは①優秀選手の入学難②施設の不完全③部費の不足④コーチ制度の不確立と、悪条件が積み重なっており、いまのままの状態では、「東京大会」に大量の選手を送り込むことなど、とても きない相談だ。これを項目ごとに掘り下げてみると……。

優秀選手の入学難

どこの部も選手の〝入学難〟には頭を抱えている。関大のスポーツに憧れる選手や、全日本級の選手を勧誘して試験を受けさせても、大半は不合格。二次試験や二部の追試験でやっと半数がパスすれば上出来だという。スポーツ選手の第一条件は良い素質にあるから、優秀選手をむざむざ逃がすのは、各部ともたまらないという。ある評議員は「いまのワク内では、とても関大スポーツの面目は保てない。なぜ東京や東京都の大学並みの思い切ったスポーツ選手優遇策を取らないのか」とふんがいしている。また応援団のOB先輩は「私学の将色は、学問とスポーツの両立にある。最近は私学が、画一的な特色のない国公立のマネをして、一見公平な学試験を行なっているが結局学問とも、スポーツにも徹底しない中途半端な学生を大量生産するだけだ。早慶を数年前はスポーツに冷淡な態度をさとって、スポーツ選手入学のワクを広げた」と語る。早慶の話は保障の限りでないが、これ以上スポーツ選手を締め出すと、一流選手が生まれてこないのは明らかであろう。

施設の不完全

ある部のマネージャーは「高校生で有能な選手を勧誘しても、東京や東都の大学と競り合うと、歯が立たない。合宿所や、練習施設を考えると、学資金まで出そうというのだから……。東京、東都なみの条件は望まないが、せめてこれはという選手の入学だけは保障してもらえないものか、と訴えている。東京や東都の大学の主な部はほとんど合宿所と専用の練習場をもっているが、関西の大学で合宿施設をもつ部は数えるほどしかなく、練習場も、サッカーやラグビー、あるいはホッケーの各部が共同使用している有様だ。某スポーツ記者は「同じ素質の選手が東京と関西の両大学に入学した場合は四年間で力量にかなりの差が出ている」というのも、施設不十分による練習の不足が、関西の選手に禍しているようだ。関大の「昭和三十五年度千里山学舎、施設、土地拡張計画」をながめてみよう。いまの第二グラウンド（硬式野球場）の東側に、千三百坪の大体育館、北に隣接してプール、東側にはの第一グラウンドと同じ四百メートルラックをもつ第三グラウンドが計画されている。またこのグラウンドの北側には馬場、弓道場、テニス・コートなどがまとめられる予定だから、これが完成すると、かなり充実したものとなりそうだ。しかし合宿所などの計画はもっと先のことになるという。それなら関大の体育施設はまず60点といったところだろう。

部費の不足

各部とも予算不足に悩んで、借金の連続である。世帯の大きい部ほど〝赤字〟の度合いがはげしい。関大体育会三十数部は学友会の予算である半期約百万円をめぐって必死の〝獲得合戦〟を展開するが、Aクラスで六万円前後の割り当てでは〝焼石に水〟である。予算の不足は必然的に部員の負担となり経済力のともなわない選手が、退部の羽目に落ちいることもある。また合宿訓練もそうたびたび出来ないし、欲しい練習用具も見合わせてお茶を濁す場合が多い。ことに大学の本会計予算では「学友会補助費」として百八十万円を計上しているが、大学祭、文化祭、学研祭への予算措置であり、体育各部には直接関係がない。

コーチ制度の不確立

選手養成に決定的な役割をはたすのはつまるところコーチである。ところが関西の各大学とも、コーチは仕事の合間をみつけてかけつける先輩が大半であり、経済、時間の両面に縛られて、徹底した技術指導の出来ないのが現状だ。あの部は、大学の事務職員や、講師の兼任という感まれた立場にある人がコーチしているが、それも講師の場合はとても生活を保障できる状態でなく、犠牲的な奉仕」という点ではほかの〝先輩コーチ〟と同じである。最近のスポーツ界は「プロ・コーチ制度の確立」がお題目だが、継続的な科学性のある訓練を行なうには、まず優秀なコーチの生活を保障しなければとても ダメである。

× ×

このようにみてくると「オリンピック東京大会へ一人でも多くの選手を」というスローガンを掲げてみても、その道はとても嶮しいことが判る。しかし〝貧弱な体育〟は関大はかりではない。ローマ大会を視察した大島鎌吉氏は『日本不振の因は、スポーツ指導者と、練習施設の不足にあり、基礎となる学校の体育が、目標と指導力を失なっている』と批判している。いわば日本スポーツに共通する欠陥を関大スポーツも背負っているわけで、これらの問題点を軌道に乗せるには、先輩や有志の力ではどうにもならず、大学当局の思い切った〝スポーツ振興策〟が待たれるわけだ。しかし選手もここで「大学スポーツの在り方」を再認識する必要があるのではないか。関大の戦前の〝黄金時代〟には幾多の人材を送り出したが、これらの名選手は、いずれも大学の〝スポーツ振興策〟というテコ入れで生まれたものでなく、選手個人の努力や、先輩の助力で生まれたものである。ここから関大スポーツの根幹である〝ファイト〟の精神が生まれた。ある部の選手に『何のために大学でスポーツを行なっているのか』と聞くと『就職のために』と答えて平然とさせられたことがある。その部の選手は、秋のリーグ戦になると四年生が『就職にさしつかえるから、試合に出してほしい』と監督に注文し、望み通りにならぬと、ふくれっ面をするそうだ。また〝ファイト〟を粗野に行動することと取り違えて千里山線の車内で〝お嬢さん〟を、聞くに耐えぬワイセツな言葉でからかったり、リンゴをかじりながら、大声でわめく低能選手はいないだろうか。スポーツの根本である〝厳しい自己鍛練〟の精神を見失なった選手がいる限り、いかに大学当局が力こぶを入れても〝東京大会への道〟は閉ざされているだろうし、また先人が血と汗で育てた〝ファイト〟に満ちた関大スポーツ〟もよみがえらないだろう。（筆者は校友会広報部副部長、読売新聞社運動部記者）

職域めぐり

つとめる校友をご紹介することにしよう。国鉄には前大阪駅長の松村さんや前梅田駅長の村上さん、福知山管理局長の村重さんら約四百名の校友がいるが、今回はまず私鉄各社を回ってみることにした。なかなか多彩でもあり人数も多い。

◇◇◇

「秋祭り」

文学部教授　高橋盛孝

（一）神社の歴史

数ある神社の起源を一々検討することは到底不可能であるが、大体の発展のあとをたどって見ると、地神さま（隠岐には今日でも畏存する）のようなものが農神の最初ではないかと思う。自分の地所の片すみに石ころをつんだり、石碑を立てたりしただけのものであるが、土地を司配し、先祖の霊が宿っていて子孫を見守っている。まつりの日には遠方にすんでいる家族も帰宅して、祭りにあずかる。こうして農村を取巻く平野の大部分には、地主があり、地神に守られている。他の地方から豪族がわりとんでくる余地はない。しかし力をもった部族がわりとんでくると、古い地神をおしのけて自分の氏神を持ちこむ。地方へ行って、中央でもよく名のとおった神社と同名の神社に出会うのは、このためであることが多い。あるいは、地縁部落が次第に膨張し、あらたに中央の有力な神を勧請して氏神とする例も少なくない。

（二）祭　日

祭日の選定もその都度神意をうかがってきめるというのが古風らしい。しかし、長年の慣習でほぼ一定した祭日がきまる場合が多い。住吉さんのような水神はしばらく待くとして、農神は、大体、春に祈年祭、秋に感謝祭を行なうのが通例で、秋祭りは特に盛大に行なう場合が多い。

（三）祭りの起り

水神は海中から、山神の山の頂上へ年に一回すがたを現わされ、民に恵みを与えられる。この信仰を具現したものが、みこし渡御で、一度水中につけてかつぎ上げたり山の上にもち上げてかつぎ降したり、あるいは、おたび所までかついでゆき、神を迎えて本殿までもどってくるという形式をとる。隠岐の総社ではみこしの行列は極めて静かで、しずしずと行進するという。西宮のお祭りでは氏人たちは戸をとざして出ず、夜中静かにお通りがあったという。えびすさまは姿がみにくく人にみられるのを好みたまわぬ等いいつたえている。大体神のみすがたをじかに拝することに恐みおそれ、人人は戸をとざしてつつしむのが古いしきたりだったと思う。あばれみこし、けんかみこしの起りはわからないが、大体は相手があるようで部落ごとにみこしをもち、他の部落のみこしと出会うと争うのが普通である。また二つの総社に先をきそってかけこむ競争をする例も少なくない。神の恩恵を独占しようとする気持からか。またふだん神に対し不敬な人々、また村人からにくまれている人の家へみこしがあばれこむのは神がとりつめるものと考えられていた。かついでいる人々の意志に関係なく、ある大きな力で追いたてられて自然に足がその方にむかうと、ある村の老人が私に話してくれた。悪人に対しては神は容赦しないものらしい。もっとも後には、かつぐ人々の間で申し合せて、村のにくまれものうちにあばれこみ、門や塀をこわしたらしい。杭全（くまた）神社一大阪東郊一のあばれみこしは有名で、家々では大きな丸太を立てならべてこれを防いだ。今でも時に見かける。こうなると幣害も多くなり、まつりに反対する声も大きくなる。まただんじりが人をひきころした例もぼつぼつ聞かれる。（先日、岸和田でもあった）しかし、だからといって、祭りの全廃をさけぶのは早すぎる。私はこの点、すこぶる保守的で、祭りはいつまでも保存したいと思う。農村では、一年たった一回のお休みであり、慰安である。テレビやラジオもおちおち楽しむ間がない。毎日五時にでて九時にかえると私のたしなむ者爆はいっていた。超重労働である。私らが農村で暮らすと毎日ぶらぶら遊んでいる様にいわれる。無理もない。

まつりが、来るべき一年の労苦に対するはげみのもとになるなら、大いにつづけるべきだ。莫大な費用も村の宣伝になることでもあり訪問客が多くなれば、ある程度損失もカバーし得る。美濃西部の一カ月にわたるおまつりは少し長すぎるが、三カ日位のおまつりは最も適当だと思う。村々で少しずつ日をずらせて十分たのしむのもよい。一、二の犠牲者が出たからといって、にわかに廃止をさけぶべきではない。それよりもはるかに多くの人々が、毎日自動車にはねられて死ぬが、自動車を廃止せよと叫ぶ人はない。しかし、祭で死者をだす様な点は十分改められなければならない。

神の降臨を待、先祖の霊の見守る中で、心の正しい人々が一年の労苦を忘れて遊ぶ。これほど清らかな行事はない。老人の感傷と片づけるべきではない。

ご結婚

▼樋口一弥氏（昭32学一法）・大阪信用金庫）はかねてから婚約中であったが、十月二日、住吉神社でめでたく挙式された。

▼糸見溪南氏（昭32学一経・住吉学園）は十月十五日松坂屋でめでたく挙式された。

大阪文化研究所設立　飯田教授ら講演

末永博士ら

十月一日午後六時から、大阪・桜橋の産経会館で、大阪文化研究所創立記念講演会「上方を語る」が開かれ国文学の立場から太宰、飯田正一教授が大阪町人を通してみた西鶴文学、西鶴の文学には大阪人の体臭がだよっていることを具体的に例をあげて講演、なかなかの好評であった。

同研究所は本年八月、本学・末永雅雄博士を代表として設立、在阪ならびに京阪神の各大学の教授らを中心に、近世日本の主流をなした上方文化の本質を究明、その評価を正すことによって明日の大阪文化を培養、振興を目的として発足、大阪文化の総合的学術研究とともに総合郷土誌「上方文化」（隔月刊）、「大阪新風土記」などの〝上方選書〟を発行、さらに史跡、資料の調査および保存し、講演会や見学会、研究会などを開催する。

本学からは研究所代表末永博士を筆頭に、専務理事に横田健一教授、飯田正一教授、有坂隆道助教授、宮本又次講師（大阪大学教授）監事に金子文兵衛教授、評議員に鋳方貞亮教授、井上吉次郎講師、加藤三之雄教授、辻部敬太郎講師（神戸大学教授）吉永孝雄講師らが参加、本学文学部有坂研究室を連絡室に、普通会員年額二千円、特別会員年額一万円の会員制で広く同好者の協力を求めている。

ハイボール・ショップでうまく雰囲気にマッチ

▼山田繁雄第三回個展▲

第三回山田繁雄氏（昭8専二英）個展が、九月二十六日から十月十三日まで、大阪、南のハイボールショップ『サン』で開かれた。洋酒ビンのズラリとならんだ棚と棚とのあいだに十数点の抽象画を配置し、前回の原色を中心にした行き方からは趣きをころっとかえて、線を主にした重厚な色合いが薄暗いハイボールショップという場所柄にうまくマッチしていた。スタンドに肘づえをつきながら、酔うほどに、レコードに軽く口敬を合わせながら、とかく刹那的なうつろになりがちな雰囲気のなかにあって、ふと心の窓をみるようなやわらぎがあって、川柳同人多数が来展、なかなかの好評であった。

なお、このあと続いて十月二十四日から三十日まで、大阪三越の宮画廊で個展が開催されるが、期待されている。（N）

底が浅く、不安定な基地経済

沖縄・尾崎義之

資源が乏しく人口密度は世界一、戦前の沖縄は日本で一番貧しい県であったようだ。現在でも資源が乏しく、そのうえにたびたび襲う強烈な台風によって、沖縄の重要な産業である黒糖、パインなどの農産物に大きな被害をもたらすとともに、軍事基地化に伴なって、比較的よい土地が広範囲に接収されたことによって、戦前、沖縄県の総所得の過半数を占めていた第一次産業が、今や全体の二割足らずに転落していることはいたましい限りである。これも敗戦の悲劇であり、一方的なアメリカ軍事政策の影響であり、島全体に散在する基地を目のあたりに見せつけられて、まったくいやな感じであった。琉球人のアメリカに対する抵抗、祖国復帰運動促進、これらは当然であって、われわれ内地の人々も同じ日本民族という一本の縄で協力しなければならないのではないだろうか。

次に近代化への経済成長の第一段階といわれる第二次産業も、戦前のそれと比較すると若干低下しているようであり、全体からして一割強という状態にある。これも資源の乏しさがその不振さを物語っているようだ。工鉱、建設業ともにダメであり、金融面からみても第二次産業への貸し付けに対してはあまり積極的ではなさそうだ。沖縄において、内地の中央銀行の存在にあたる琉球銀行の貸付対象を例にとると、タバコ、黒糖、パインなどの特産物に力を入れており、最近になってやっとセメント業、建築業等のいわゆる第二次産業に投資しつつあるといわれている。だが、期待されているセメント業でさら、今のところ計画中だと聞いてその貧弱さが痛感した。岩石が多く、やせた土地、しかも耕地面積が極度に狭まい島、地下資源が無く、草木も少ない島、こんな状態では、第一、第二次産業の不振さがおして知べしといったところである。これら産業に比べて、第三次産業となると、戦前のそれと比較して二倍以上にふくれ上ったようだ。全体の七割を占めており、特に著しい上昇ぶりを示したのは、卸、小売、金融、不動産業であるといわれている。このうち、不動産業の中に年生五〇〇～六〇〇万〝の接収費用、土地使用料が含まれている。次いで基地に従事する琉球サラリーマン、米兵を相手とするサービス業、これら三つが、間接的にではあるが、アメリカの落とすドルの合算は、第三次産業の半数以上をしめているといわれているのであるが、例えば、サービス業にあっては、米国の演習の場所移動によって、不安定極まるらしい。とにかく、サービス業のような非生産的所得が沖縄の経済を支えているとあっては、あちらデコボコ、こちらデコボコといったように、まったく不安定な、しかも典型的な基地経済である。その上にあの小さい島に八六万人（一九五八年現在）がひしめきあっている。これを東京・那覇の二大都市で面積と人口密度を比較してみると、那覇市では二（万〝）に対して二〇万人で密度は一万人と話にならないほどの過密さである。

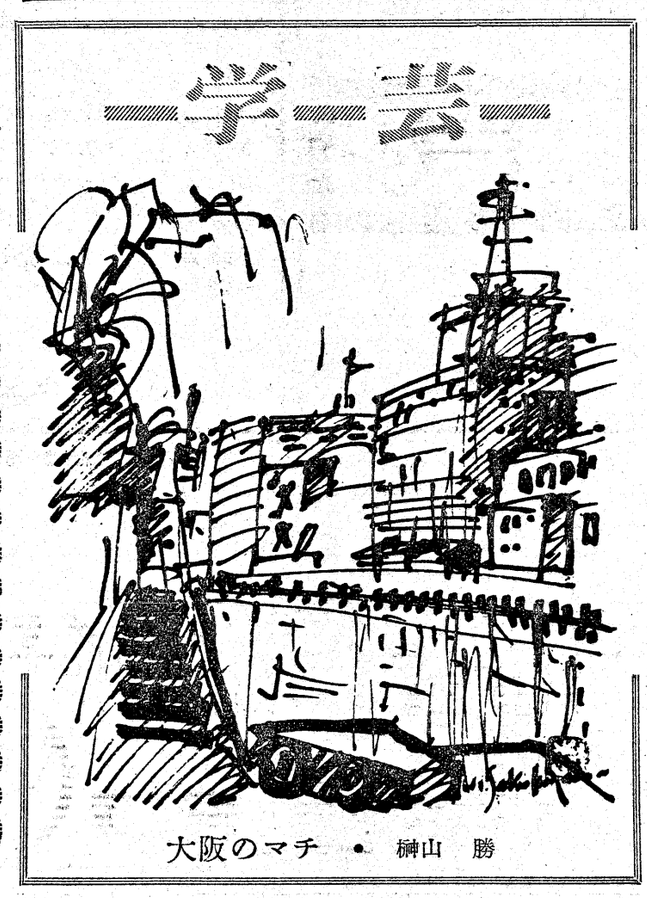
消費文化栄える都市・那覇

端的に、沖縄とはどういうところかを知るために、琉球の首都・那覇をぶらぶら歩いてみると、那覇の中心に〝奇跡の一哩〟と呼ばれる国際大通りがある。銀行、会社デパート、映画館、商社街など、焼け野原からよくもこれだけ復興したものだと、はじめは目をみはらしたほどの立派な建物が立ち並んだ所がある。道路も広く、立派で、丁度、大阪の御堂筋に似ている。これら界隈だけを見ていると大阪、東京の盛り場と大差がないようだ。交通機関は電車、汽車などはなく、バス、タクシーを人々は利用し、運賃はこちらに比べて少し安い。タクシーは小型で二〇〇〇円（約六十円）で、ガソリンが安く入手出来るためだろうか。商店街を歩いてみて、各商店にある〝もの〟は、大抵内地から輸入したものであった。一般に必需品は高くぜいたく品は比較的安い。ダイヤ、時計、カメラ、万年筆などは、こちらの買価よりも半価ないし三分の一で買える。というのは税金が五％程度らしい。全く安い。ついでに、こちらより安いものをあげてみると、タバコ、これは民間企業で、現在三社が競販、私企業だけあって品質、価格ともに消費者へのサービスぶりは怠っていないようだ。最近、内地で売り出したハイライト同様、キングサイズで二十本入り、そしてフィルター付きで種類も多く、共に同一価格一〇円（三十六円）で売れている。（写真・那覇市国際大通り）

不安定な基地経済

大阪のマチ

榊山　勝



菓子のうつりかわり

―「久多毛能」からはじまる―

紙屋幸男

久多毛能（果物）といって、今の菓子にあたるものは、平安朝に輸入された唐菓子にはじまるのである。上古時代の菓子はすべて穀類製品で「正倉院文書」から奈良朝における菓子を見ると

大豆餅、小豆餅、煎餅、麦餅…

全部が餅になっている。これらは一般には常食でもあり、間食として利用されていたもので、平安朝前期に輸入された八種の唐菓子（梅枝、桃子など）による影響は鎌倉時代になって一日二回の食事から、間食を食事に、つまり三食制になることによって、はじめて嗜好的傾向をおびてきて、一部階級の嗜好的独占物となる。

茶道ではお茶菓子を「点心」という。元来の意味は「食事と食事との間の食物」ということで、主として饅類が用いられていた。但し『嬉遊笑覧』に見られるように中頃の名に随えば、蒸菓子はすべて点心に属し、干菓子は菓子というも、そのかみは左にあらず、くだものといえり。

と、室町中期までは蒸菓子はみな点心であった。饅類が点心として用いられたことは、練羊羹の創製にあずかるところが大きい。それまでは羊羹といえば「煎一」から発達した蒸羊羹であったのだが、天正十七年（一五八九）寒天と砂糖との練り合せによる練羊羹が、京都伏見の駿河屋・岡本善右衛門によって創製されると、時、秀吉による茶会がもてはやされていた折だけに、膝元でのこの新製品はたちまち秀吉の御意にかない、大いに賞賛されたものであった。菓子が嗜好的になった時から、特に特権階級による茶道の発達とともに、美的趣味にあう風味を求めたことは当然であった。江戸時代には政治の中心が江戸に移ることによって京菓子と上菓子（江戸）の対立する風潮がみられるようになった。といっても、江戸の写実的なのに較べて関西は象徴的な着りを尊重する。茶道と常に密接に結びついてきただけに当然のことで、もともとは京から移ったものであり、上菓子とは、京では献上菓子だが、江戸では駄菓子に対する上菓子であった。しかし、点心としての「松風」「朧夜」等の静寂、優雅をたたえた京の伝統に対して政治都市としての四囲の環境は、その中心にふさわしい武士と庶民とを対象とした独特の個性を加味してきて優艶な感じの傾向をおびていったのである。安永六年（一七七七）刊行の『富貴地座位』の菓子の部をみると、塩瀬饅頭が第一位となっているが、関東をも押えて第一位と称されていたのに、大阪・高麗橋の虎屋大和大椽の「虎屋饅頭」があった。甘酒皮の饅頭で、江戸の中頃、卒先して商品切手（饅頭切手）を発行して、時代の先端をいったのは有名である。幕末の頃、経営不振になり、当時の番頭だった鶴屋（先々代）と小豆などの原料仕入先だった八幡屋とが、鶴屋・八幡と両者の姓をとり再興にあたった。

戦前までは、お菓子の注文にしたところで、得意先によって味加減のむずかしさがあって、わざわざ味の指定まであったが、それも最近はなくなったようである。一つのかたちにはまった味加減で、現代人は満足しているということは、それだけ、世の中が宇宙ロケットだとかでめくるましく進展していくのに、ゆっくりお菓子を味わっているひまもなくなったということだろうか。

都会の真ん中に立って、車の流れを見ている時、ひと際、そんな感じがしてならない（昭32学一経）

柳川

木犀の香よ

山田菊人

愚かにも木犀猫かんとして不首尾
木犀に恋の憲章しかじかと
ハンドバッグ木犀の錘に牙を鳴らす
金木犀恣あけ放つ鬼屈の眠
逢引の闇に自虐の木犀の香
木犀の香よ涸れ靴は甦らず
蒼空へ呵責奏でる金木犀
木犀乱舞して子犬のワルツ絶つ
罪の翳あたためつ降る金木犀
木犀の香よ肉塊は時を刻み
脳天に金木犀を腐茶離に縛める

校友の動き

移転

▼藤本恭一氏（昭33学二法）守口市京阪本通一ノ五二一
▼段章氏（昭31学二法）大阪市旭区大宮町九ノ九一
▼岸本学氏（昭34学二商）神戸市長田区名倉町二ノ三七　綱本方
▼本庄正氏（昭19専一商）明石市見町東二見八九八ノ二
▼丸尾泰治郎氏（昭23専一商）大阪市西区上汐町三ノ七
▼福島通夫氏（旧姓・中村周介、大9専法）鹿児島県鹿屋市北田町八一五六
▼井上俊雄氏（昭33学一経）東京都台東区御徒町一ノ五七
▼真鍋輝夫氏（昭20専一経）神戸市兵庫区鈴蘭台旭ケ丘一八
▼上田敏氏（昭26専一商・伊丹市役所）伊丹市伊丹三二六　藤森方
▼長野観氏（昭10専一商）桃谷順天館）布施市大蓮一五三六
▼刈谷明志氏（大13専法・大阪ダイヤモンド工業取締役・堺市上之町一〇五ノ九
▼広岡正則氏（昭11大法）豊中市曽根西町一ノ五二　曽根荘
▼藤原誓三郎氏（昭19専一経）寝屋川市大字国松五三八
▼四柳利夫氏（昭31学二法）大阪市住吉区加美細田町一ノ三　市住一棟ノ三〇号
▼田中巌氏（昭10専一法）吹田市大字穂阪五五〇
▼中村喜氏（昭9専二商）箕面市
▼世古保志氏（昭28学二法）布施市下小阪二一ノ六
▼播磨荘一郎氏（昭29学一法）同
▼樂雷恵氏（旧姓・薄本、昭30学一法）東京都中央区晴海団地一三ノ四〇六
▼平井常之氏（昭34学一経）大阪市東区道修町二ノ四一　中大阪大東食研KK内
▼加納央雄氏（昭34学一経）池田市石橋町九　臣田方
▼野山敏男氏（昭35学二経）河内市大字中野五四五ノ一　府営花園住宅二一棟一九号
▼石井実雄氏（昭32学二経）大阪市天王寺区勝山通二ノ二七
▼牧昭二郎氏（昭25学一経）羽曳野市南宮中ノ島住宅八号
▼小藪治夫氏（昭23専一商）大阪市東住吉区駒川町八ノ三一山田方
▼一文字剛氏（昭29学一法）西宮市津門西口町一六
▼稲崎清氏（昭30学二商）奈良市綿町二五四
▼前田昌夫氏（昭31学二商）大阪市住吉区長居町中四ノ三八
▼一色恒三氏（昭30学一商）河内市鴻池八九四ノ三
▼川西健氏（昭28学一法）枚方市香里ケ丘公住A四六ノ四〇一
▼田中竜太郎氏（昭30学一経）大阪府北河内郡門真町野口一〇六
▼蓮井政信氏（昭30学一商）神戸市東灘区住吉町宮守堂五五〇ノ三
▼藤本恭一氏（昭33学二法）守口市京阪本通一ノ五二一
▼段章氏（昭31学二法）大阪市旭区大宮町九ノ九一
▼岸本学氏（昭34学二商）神戸市長田区名倉町二ノ三七　綱本方
▼本庄正氏（昭19専一商）明石市見町東二見八九八ノ二
▼丸尾泰治郎氏（昭23専一商）大阪市西区上汐町三ノ七
▼福島通夫氏（旧姓・中村周介、大9専法）鹿児島県鹿屋市北田町八一五六
▼井上俊雄氏（昭33学一経）東京都台東区御徒町一ノ五七
▼真鍋輝夫氏（昭20専一経）神戸市兵庫区鈴蘭台旭ケ丘一八
▼上田敏氏（昭26専一商・伊丹市役所）伊丹市伊丹三二六　藤森方
▼長野観氏（昭10専一商）桃谷順天館）布施市大蓮一五三六
▼刈谷明志氏（大13専法・大阪ダイヤモンド工業取締役・堺市上之町一〇五ノ九
▼広岡正則氏（昭11大法）豊中市曽根西町一ノ五二　曽根荘
▼藤原誓三郎氏（昭19専一経）寝屋川市大字国松五三八
▼四柳利夫氏（昭31学二法）大阪市住吉区加美細田町一ノ三　市住一棟ノ三〇号
▼田中巌氏（昭10専一法）吹田市大字穂阪五五〇
▼中村喜氏（昭9専二商）箕面市
▼世古保志氏（昭28学二法）布施市下小阪二一ノ六
▼播磨荘一郎氏（昭29学一法）同
▼樂雷恵氏（旧姓・薄本、昭30学一法）東京都中央区晴海団地一三ノ四〇六
▼平井常之氏（昭34学一経）大阪市東区道修町二ノ四一　中大阪大東食研KK内
▼加納央雄氏（昭34学一経）池田市石橋町九　臣田方
▼野山敏男氏（昭35学二経）河内市大字中野五四五ノ一　府営花園住宅二一棟一九号
▼石井実雄氏（昭32学二経）大阪市天王寺区勝山通二ノ二七
▼牧昭二郎氏（昭25学一経）羽曳野市南宮中ノ島住宅八号
▼小藪治夫氏（昭23専一商）大阪市東住吉区駒川町八ノ三一山田方
▼一文字剛氏（昭29学一法）西宮市津門西口町一六
▼稲崎清氏（昭30学二商）奈良市綿町二五四
▼前田昌夫氏（昭31学二商）大阪市住吉区長居町中四ノ三八
▼一色恒三氏（昭30学一商）河内市鴻池八九四ノ三
▼川西健氏（昭28学一法）枚方市香里ケ丘公住A四六ノ四〇一
▼田中竜太郎氏（昭30学一経）大阪府北河内郡門真町野口一〇六
▼蓮井政信氏（昭30学一商）神戸市東灘区住吉町宮守堂五五〇ノ三
▼西本均氏（旧姓・中沢、昭28学一英）川西市栄根沢三
▼山田久次氏（昭4専経）東京都杉並区西田町一ノ四七二
▼妹尾彰之氏（昭33学一経）大阪市住吉区我孫子西三ノ五清風荘
▼可児芳一氏（昭23大法）宝塚市蔵人字仁川辰一四六一
▼池山仙之丞氏（昭35学一経）大阪市都島区毛馬町三ノ六三　近鉄運輸KK内
▼飯田利郎氏（昭18専一商）津市下弁財町東津興七六七ノ一
▼樋口武司氏（昭35学一英）大阪市住吉区安立町四ノ一四
▼阿久津成一郎氏（昭34学一法）神戸市須磨区関守町三ノ三六
▼西田貞雄氏（昭13大経）川崎市堀之内三四　西田産業KK内
▼麻生川重氏（昭28学二政）貝塚市半田六一四
▼松阪太郎氏（昭9専二法）川崎市小杉町一ノ四〇三　NHK第一武蔵小杉寮
▼菊池貞広氏（昭11専二商）茨木市下中条　国鉄アパートJ二〇五
▼本多浩氏（昭31学一法）加古川市加古川町北在家四五四　菱垣方
▼広橋栄吉氏（昭10専二経）泉大津市下条六一四ノ四〇
▼小堀巌氏（昭30学一新）名古屋市瑞穂区下坂町三ノ五〇
▼児島圭一郎氏（昭34学一経）大阪市東成区大今里本町五ノ八二　東洋電線KK内
▼藤井博氏（昭27学二法）尼崎市樋堂園和三ノ一
▼熊谷好氏（昭3専商）奈良市高畑町本薬師六一八
▼大槻昭末氏（昭30学二法）京都市右京区桂野里町一二
▼舟本定男氏（昭25学一経）茨木市三宅町蔵垣内四八六
▼井出正秀氏（昭32学一法）大阪市東淀川区上新庄一ノ三三六　春日荘
▼山崎仙松氏（昭24専二商）大阪市東住吉区加美神明町一ノ一五　食研KK内
▼谷福逸氏（昭8専二商）大阪市東住吉区瓜破東之町五八〇
▼流郷準二郎氏（昭29学二経）大阪市北花園酉島町六ノ八三
▼兼田繁人氏（昭30短大一）堺市東永山園町四五
▼奥田雄一氏（昭27学一商）大阪市住吉区万代西二ノ四〇
▼大江健次郎氏（昭7専法）枚方市香里ケ丘公団住宅A三四ノ一〇一
▼児島明氏（旧姓・山本、昭23学二商）大阪市西成区津守町東七ノ八七
▼熊田敏治氏（昭16専一法）大阪市城東区北中浜町四ノ六三二
▼小町晋三氏（昭33学一法）大阪市城東区古市中通三ノ八
▼山本恵子氏（昭35学一哲）大阪市福島区海老江二ノ四〇
▼家舗菊氏（昭28学一経）大阪市住吉区大領町四ノ五八
▼山田敬二氏（昭35学一経）大阪府東大津市下条六一四
▼今川義武氏（昭33学一経）兵庫県加東郡滝野町上滝野兵銀滝野寮
▼喜多洋三氏（昭30学二経）守口市神木町一四

転勤

【　】内は旧職

▼松尾光剛氏（昭32学一経）は因幡電気産業本店販売課【福岡営業所】に転任、住所も大阪市北区若松町五に移転した。
▼中島弘治氏（昭15専一法）は尼崎郵便局【神戸中央郵便局】に転勤、住所も大阪市都島区上都島中一ノ五五に移した。
▼波多野琢志氏（昭34学一経）は株式会社東興商会に転社、住所も東京都品川区五反田六ノ四四八東興商会寮に移した。
▼北川実男氏（昭14大経）は東洋信託銀行難波支店【三和銀行布施支店】に転社した。
▼荒川弥一郎氏（昭15大法）は高知県窪川中学校【窪山中学校】に
▼岡部晴氏（昭14専一経）は神戸公共職業安定所矢業保険給付課長【伊丹公共職業安定所】に栄転

中山芳助氏（本学校友課長・中山厳氏尊父）は十月六日急性肺炎で逝去された。なお告別式は八日午前十一時から府下泉北郡高石町の自宅で執行され、関係者多数が会葬した。

今回の評議員さん

江里口春志

九月二十五日わが関西六学の評議員選挙の開票が施行されたが（校友速出）、前回の昭和三十一年度の時よりも激戦の上に激戦でなかなかだった。なんとかこの選挙法も改正されなければ、あまりもケワしい、シンドイし、母校の名を汚すような事故が、だれかの候補者が万一起こしてもイヤラシイし、そのうちに改正の必要もあろうと思う。時に前年度から引続いての評議員の数は五十人中三十二人で、十八人が新評議員ということになるが年令を検討すると、最高七十二歳から最低の三十二歳になっている。全評議員の平均年令は五一、二歳のようだ。得票数は前回三十一年度の時の当選者の最低得票は一六三票で、最高は六二〇票だったのに比較して、今回の最低得票二七四票に対し最高は一〇七二票だったのをみても、年々なかなかむずかしくなる一方だ。東京、広島、金沢、岡山あたりの違いところに居られる候補者もあり、全国的に幅の広いものだった。新評議員の在職を拝見すると、奈良、和歌山の市長さん、裁判官さん、神官個人さん、上級役人さん弁護士さんの中の偉い人々、市府会議員さん、医師、会計税理士さん、校長さん、銀行の重役さん、郵便局長さん、その他、大会社の重役さん、実業家のソウソウたる人々が揃いなかなかの多士済済だが、さびしいことは大新聞社の代表の方々の名が落ちていることでなんとか母校発展の意味からも、大新聞社あたりの人々を落さないように次回は研究する必要もあろう。アリャ忘れた、石井さんのことを……。

（本学・評議員）

× ×

大工人形
取締役社長　中山幸市

OB速記事務所
大阪市生野区片江町6の87
電話 ㉞2085 ㉔7634
橋詰幸一

山一證券
大阪市東区今橋3―5

住友生命保険相互会社
本社　大阪市北区中之島2―16
総局　東京都中央区京橋1―1
支社・月掛営業所全国各地に102

新発売
LION
ライオンペン
ダイス　ケース入

MIクラブで一財産
ユニット投資信託
オープン投資信託
株式・公社債

伝統と技術を誇る
洋服は神戸
洋服
スコッチ
KOBE
三宮センター街 TEL(3)5041
モダン寺筋 TEL(4)1732
神戸注文洋服専門店会

疲れ目に！
さわやかな　さしごこち
新大学目薬
15cc ¥100
参天製薬

短波もきける超小形
アンテナをのばせばポケットの中で海外放送が楽しめる2バンドオールウェーブ　特許の竹パルプコーンスピーカーの採用で、音の良さは大形ラジオなみ
Toshiba
東芝
トランジスタラジオ
7石1ダイオード　6.5cmスピーカー
9段延びロッドアンテナ　革ケース付
7TP―382S
定価　10,500円
現金定価　9,900円
東京芝浦電気株式会社
東芝商事株式会社

Kent マークの
理科学機器は学校用実験器具として、学習目標に忠実親切で、生徒実験の酷使に耐える厳丈な構造しかも美しい体裁をもった製品として、年々広くご採用をいただいてまいりました。
株式会社　内田洋行
大阪市東区本町一丁目
電話(26)8631～8639

レクリエーションには
信用第一の
阪急観光バス
大阪市北区角田町51（阪急ビル西新館一階）
阪急バス株式会社
大阪観光案内所
電話㉞0737～0739

お子さまの
学資金は
住友の
貸付信託
1口1万円・元本保証
（配当予想）
5年もの　年7分8厘
2年もの　年7分
おハガキでお申しこみ次第、美しい「お金の上手な預け方」パンフレットをお送りします。
住友信託銀行
本店・大阪市東区北浜5丁目22（住友ビル内）